

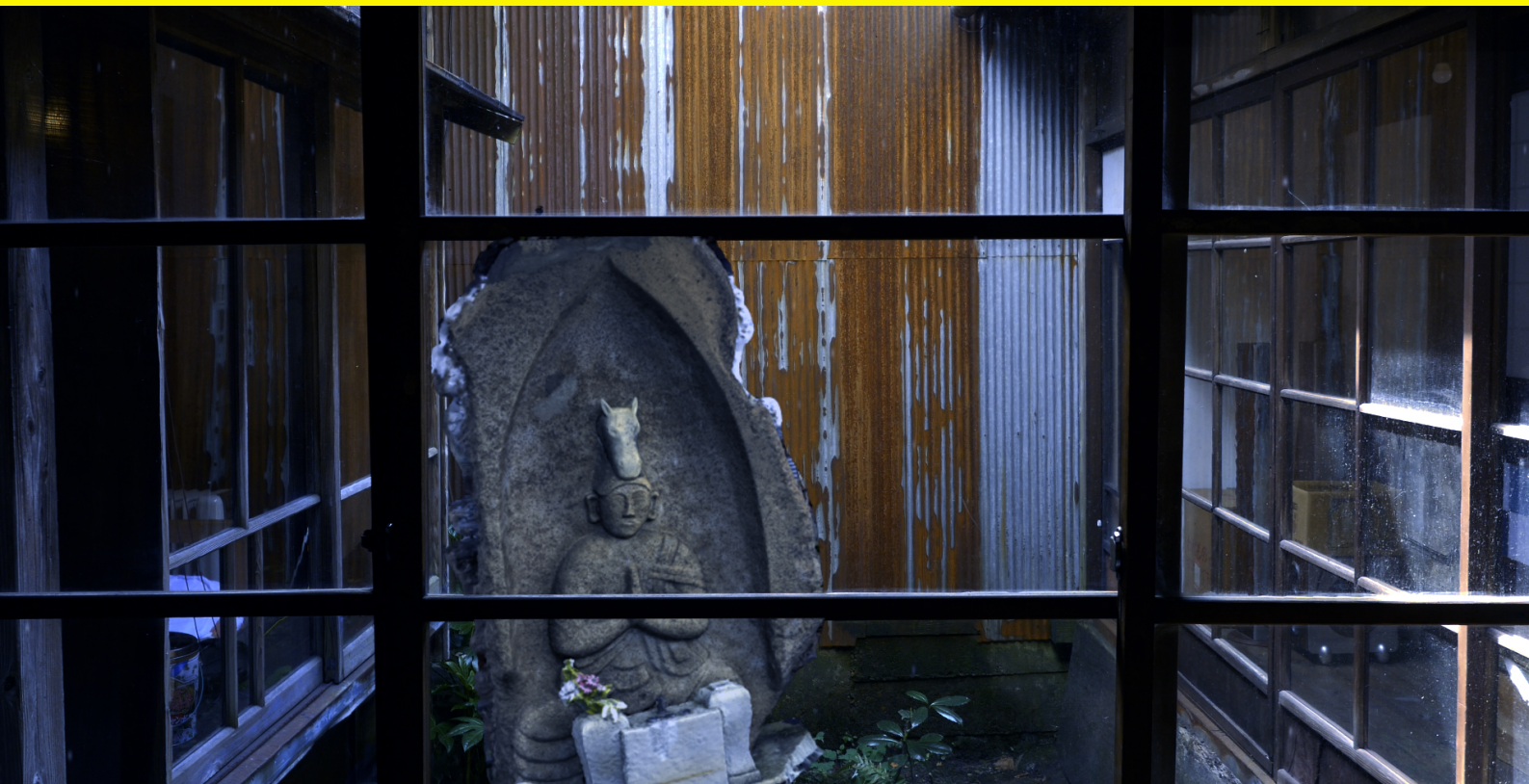


小須戸ARTプロジェクトは、私の初めての国内でのレジデンスだった。海外でのメディアアート系のアートスタジオでのレジデンスに参加していたので、自分のいつものテーマがそのままスタジオと関連した為に、コンセプト造りは容易だった。しかし、小須戸ではリサーチをメインに行った為に、コンセプト造りにとても苦戦してしまった。毎日様々な人に出逢い、たくさんの場所、情報、体験が、全て自分にインプットされた。自分はコミュニケーションに疲れる事が多く、これらの大量のインプットによって自分が消えていく様な感覚を味わった。疲れた私はいつも滞在先である町屋ラボの中庭を眺めていた。町屋であった為に表格子は全部ガラス張りで見え、落ち着かなかった為に内側の中庭廊下で落ち着いていたのだ。長屋に滞在するのは初めてだったが、交流が得意でない昔の人々もここに落ち着いていたのかもしれないと考えた。小須戸の長屋の特徴はいくつかあるが、「雪下ろしの為に中庭が広い」という点がある。また、新潟県の冬は雪と雲が終始空を覆っており、とてもどんよりの気分になり、2019年には全国自殺率2位を記録した。憂鬱とした感情が中庭に積もったり解放されていたのかもしれない。そこで、これらのたくさんの情報が雪崩れ込んでくる心情と、雪が溜まっていく風景をミックスさせた映像を作ろうと考えた。



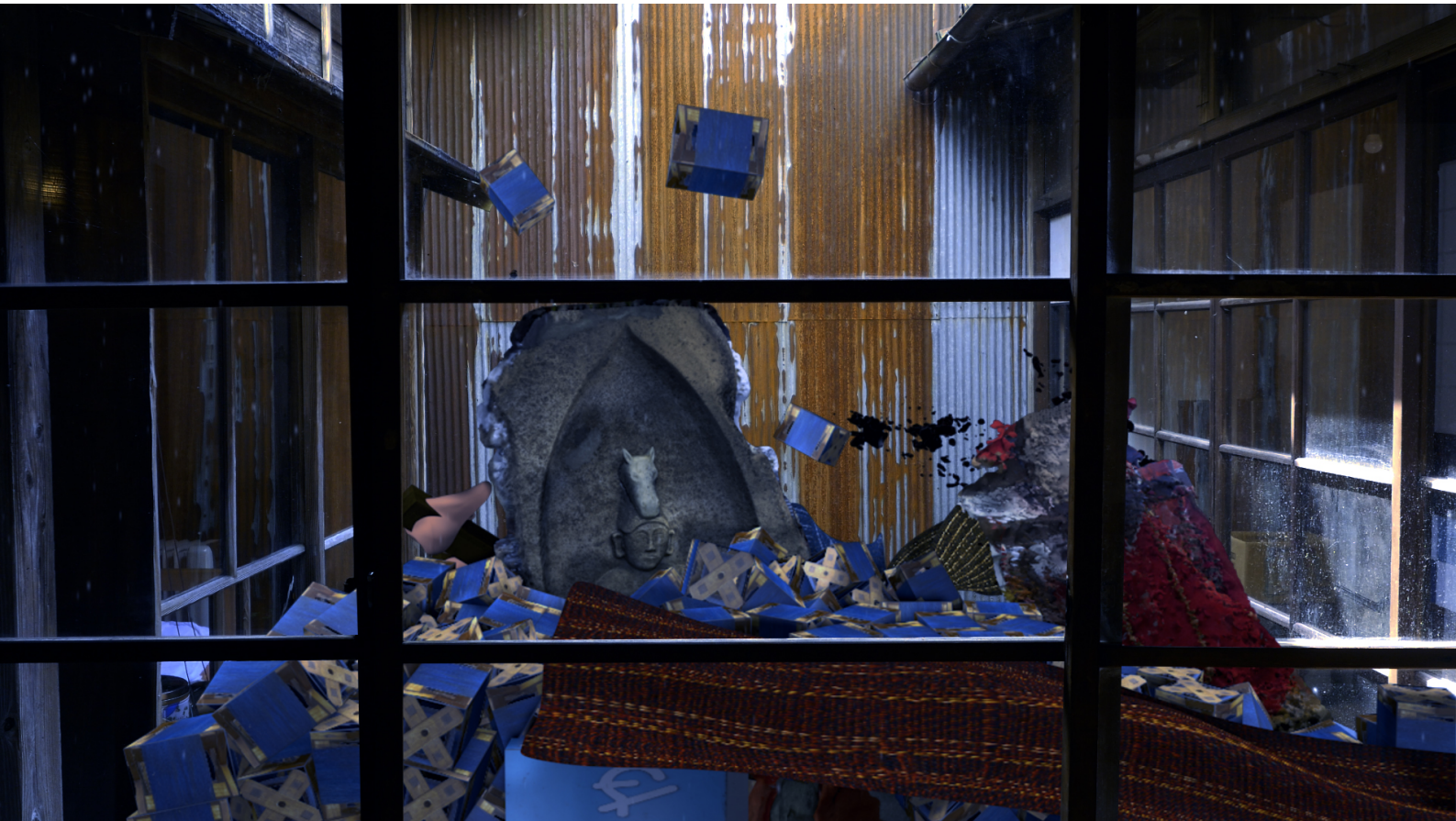
合成前の中庭

[映像リンク](#)



音は暗くなりすぎない様にカートゥーンのようなポップな音や、溺れていく様な水中の音を作成した。

特に私の中で記憶に残ったもの達が屋根から落ちてくる。馬頭観音は川渡りで大量の馬が亡くなってしまった悲劇的なストーリーの象徴と街の入り口の象徴として最初に登場させた。商店街は看板ほぼ全て閉店したものだだったが、選挙のポスターと新しい商店街のポスターを対照的なものとして登場させようと考え、同じ板のオブジェクトとしてCGで作成した。鼻隠しは建築用語で端隠しらしいが、どうしてもミスリードさせる演出を名前に感じ私の記録にはそのイメージが残っていたので、鼻を隠す木材を登場させた。そして、リサーチで一番時間を割いた小須戸縞である。職人である主人が少し前から倒れてしまった為に小須戸縞はこのままでは途絶えてしまう。支え続けた奥さんの話や新聞などを拝見し、たくさんの時間が詰まっていた事を感じた。そして、工場でホコリを被っていた数々の機械と糸。その中の一つ、糸巻きを記念に頂いた。それは自宅に持ち帰っても明らかに工場での何年にも積み重なってきた時間を感じる物体で、オーラの様なものを発している。この糸巻きがこのレジデンス中に獲得して今も自分の周りにもものとして残っている唯一のものである。閉店した店の看板、祈りをたくさん詰め込んだ仏像たち、新しい商店街や選挙のポスター、今消えてしまおうとしている小須戸縞の工場、町屋ラボで昔使われていた時計、これらの過去と現在の時間が詰まった物体達を中庭に積み重ねその上から、消えてしまう筈だった糸巻きがたくさん生まれていく事で時間を塗り替えようとした。そこで、これらのたくさんの情報が雪崩れ込んでくる心情と、雪が溜まっていく風景をミックスさせた映像を作ろうと考えた。

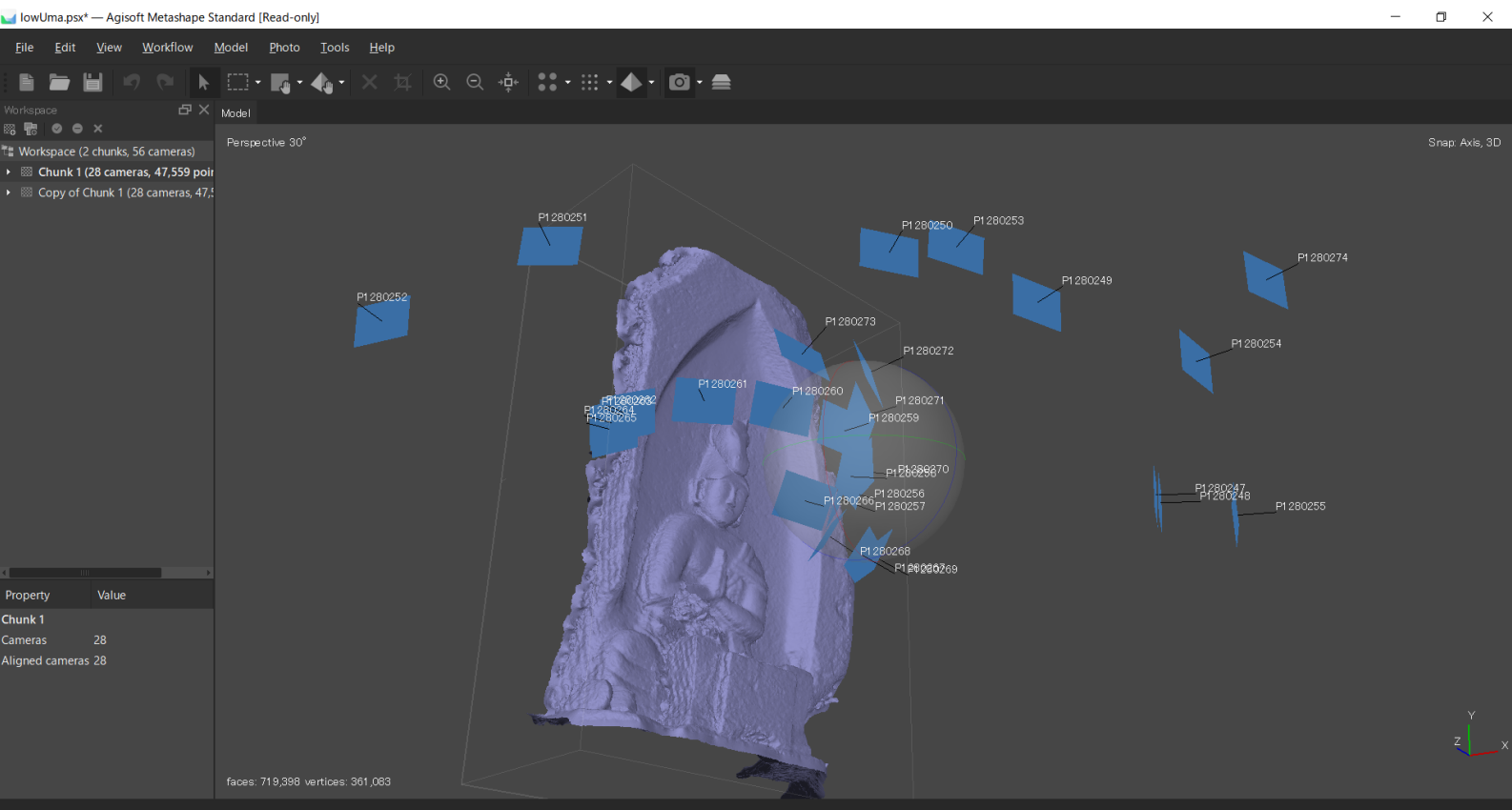




短い期間であったが、コロナウイルス で国内に閉じ込められてしまった状況だったからこそ、地元のアートシーンを知る事ができ、参加する事ができた。新潟のアーティストとして、できる事やしたい事をこれをステップにして展開していきたいと思う。

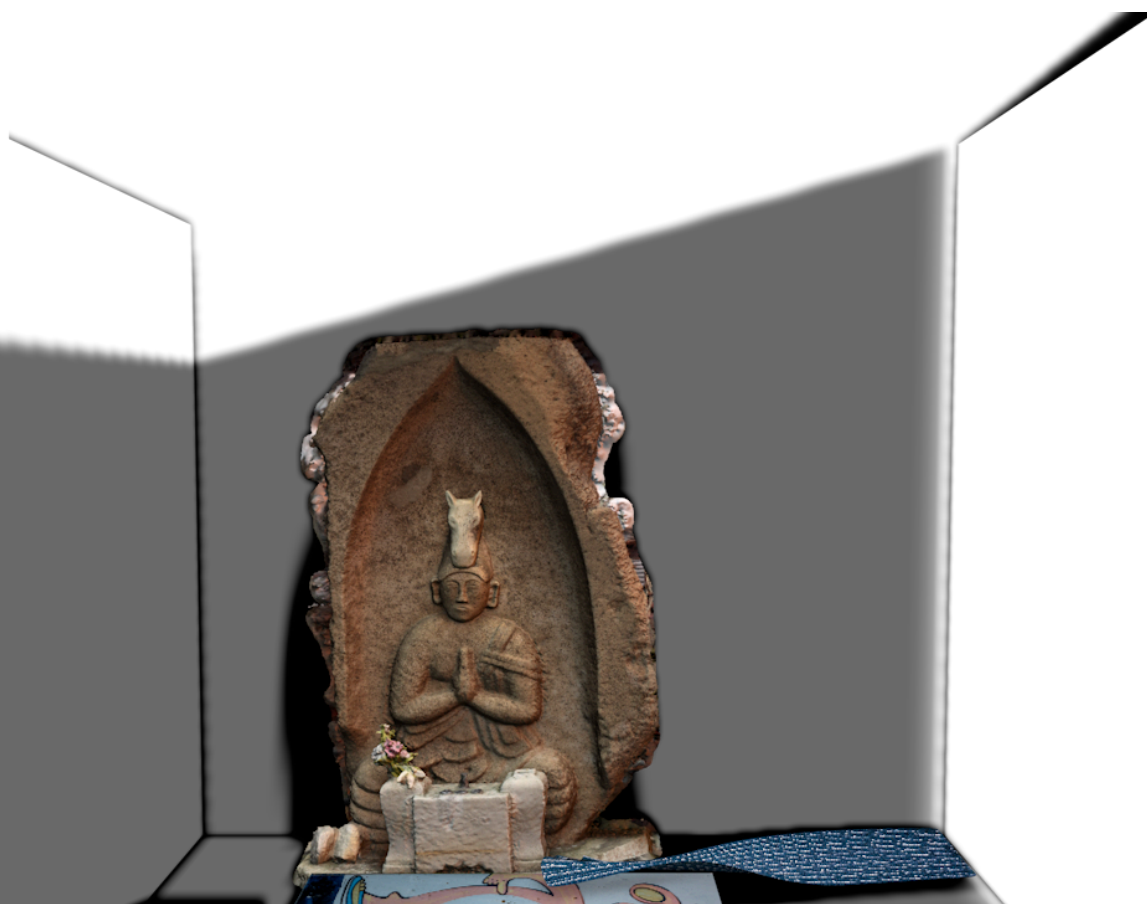
テスト過程でできたグリッチした馬頭観音

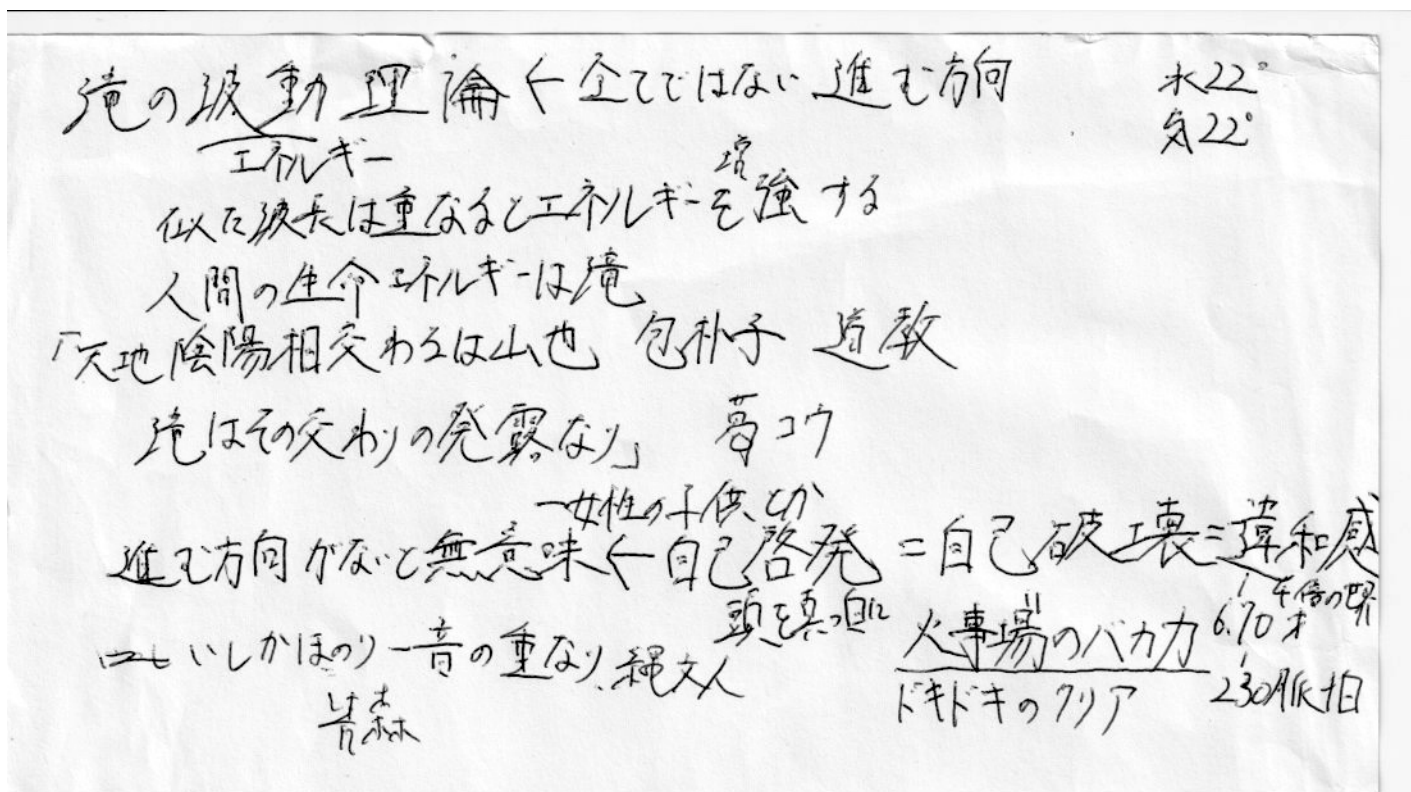




↑複数の角度から撮影された写真からCGモデルを作る技術を活用した。”記憶の積層”もテーマに入っているので、複数の過去（写真）から1つの概念であるCGオブジェクトを作る過程は作品に合致していたと考える。

## 合成前のCGモデルと光情報





また、当初の目的ではマッチングアプリでAmazonの商品の様に判断されてしまう人達を滝が無造作に仕分けする作品を構想していた為に、滝行にも参加した。ここではアーティストとしてのメンタル強化を行う事ができた。参考までに、板書した座学のメモ↑、そこで作成したレポートを次のページに添付する。

映像URL <https://vimeo.com/476622854>

## 滝打たれ初回レポート

初修行日 2020年9月11日

氏名 野上 勝己

気温 22℃・水温 22℃ 打たれた滝 5m・3m・m・m

1・2は打たれる前、3以下は打たれた後に記入しなさい。9は必ず記入しなさい

1なぜ滝に打たれようと思ったか 日頃の焦りや不安を解消、体に動じな自分を自分になりたかった為

2滝に打たれようと思いが生まれたのはなぜだと思うか

7月7日の水風呂の際に、新しい自分、脱皮する感覚があった。サウナを買い、資格もひ、もし自然に近、もの、体を捨て去り精神を鋭くさせたかった。アタマや無我の境地、仏教を調べる内に滝に行き着いた。水に入ると重力が体が軽くなる。

3自分の中も異常な力(=抱朴子の天地陰陽の力)を感じる事ができたか

異常な力は感じなかったが、発声で力が根こそぎ消えていく感覚があった。パワーは使い切ったような気分だった。

4命は授かりものという思いを感じる事が出来たか

道中での虫の多さ、夜の山の中、自分の知らない町での滞在に、緊張と危機感で、生きていたという気持ちを感じた。運転の後はいまの感覚に陥る。

5 1回目の2度の滝打たれで全力で滝に向かって行けたか。出来なかったとしたらそれはなぜ

9時19分で行けた。終りの方でハテしてしまっ。そして、声が上がって出た。ために発声の仕方意識が向かってしまった為だ。

6 全力とはどういう事か、イメージできたか

声がかききり切れる事。体のパワーが無くなってゆく事。

7 2回目の滝打たれは1回目とどう違ったか

8「イ・ヤ・ケ」に関して普段の自分をどう思ったか

イ(一切の価値観は捨ててかかる) 普段の自分ならこういう活動には参加しない。ぬくもりの良い事を自分に合っている事と捉えると、自分の幅が狭まる。

ヤ(やりたくない事から行う) 上に通り、自分の価値感では論理性や直感を大事にしている。だがそれ、真、直な自分に新たな価値感が生まれる。自分の限界、人の人間の底を知る事は大事だと感じた。

ケ(結果を無視し全力を尽くす)

中々自分にできる事。結果は入事だがそれがその思いが結果にも悪影響を及ぼす可能性がある。

9気づいた自分をどう判断し対応させるか 自分を知る・自分の個性を知る糸口にする

自分の直感は大事にする。それを掘り下げ、残ったものが自分。人に自分も広がる。また自分は若いという事実を有効に、使いたい。いつも自分の心に老いを感じてしまっていた。心を若くする為、色んな経験をして、新しい自分を下げるようにする。修行やサウナ、無理矢理自分を持た上げる術を使う。運動は効果的。